

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史 I I
科目基礎情報					
科目番号	15330		科目区分	一般 / 必修	
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気工学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『世界の歴史 A』 (山川出版) 『グローバルワイド最新世界史図表』 (第一学習社) 『私たちが拓く日本の未来』 (総務省・文科省)				
担当教員	佐々木 香織				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代の社会制度・政治制度の変遷について理解できる。</li> <li>2. 帝国主義と国民国家形成との関係が理解できる。</li> <li>3. 列強諸国の世界進出に日本も深く関わっていることが理解できる。</li> <li>4. 東アジアをめぐる列強諸国と日本との関係が理解できる。</li> <li>5. 近代日本の外交について理解できる。</li> <li>6. 二度の世界大戦における各国の立場を理解できる。</li> <li>7. 大戦後、独立するまでの日本の状態を理解できる。</li> <li>8. 歴史的な事象に関わる日本および世界の地理の知識を得る。</li> <li>9. 適切な資料を調査し、必要な情報を取捨選択できる。</li> <li>10. 調査した資料を私見を交えず客観的にまとめることができる。</li> <li>11. 歴史的な事象について考察したことを論理的に表現、記述できる。</li> <li>12. 現代世界の諸問題を自らの問題として考察する力を養う。</li> </ol>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 項目1,2,3,4,5,6,7,	歴史的な事象について読解・表記・説明でき、それらを自分の問題として考察できる		史的な事象に関する語句を正しく読解・表記し、意味を説明できる		歴史的な事象に関する語句を正しく読解できない。意味が説明できない。
評価項目2 項目8	世界史・日本史で学ぶ国や地域についての正確な知識を得、地図上に表記できる		世界史・日本史で学ぶ国や地域についての正確な知識を得る		世界史・日本史で学ぶ国や地域の名称を知らない
評価項目3 項目9,10,11,12	現代の諸問題を自らの問題として考察する姿勢をもち、歴史的な事象について適切な資料を調査収集し、必要な情報を取捨選択して私見を交えず客観的にまとめ、その内容について考察したことを論理的に表現・表記できる		歴史的な事象について考察したことを論理的に表現・記述できる		歴史的な事象についての知識がない
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	これからの技術者は、多様化する現代社会に対応し国際社会や自然環境への理解を深め、幅広い視野を持つ必要がある。そこで本授業では、近現代の世界・日本の歴史を総覧することで知識を高め、それに基づいて現代の諸問題を主体的に考察し、自らの考えを論理的に表現する基礎学力を養うことを目標とする。				
授業の進め方・方法	到達目標を達成するため、随時、地図作業、論述文作成を課す。				
注意点	<p>【評価方法・評価基準】</p> <p>成績の評価基準として50点以上を合格とする。試験は中間試験、期末試験の2回行う。</p> <p>成績評価の割合は以下の通り。</p> <p>前期中間試験 (40%)、前期末試験 (40%)、レポート課題 (10%)、ノートテイキング (10%)</p> <p>事項の暗記に終始せず、出来事の成り立ちやそれぞれの影響関係についてよく整理しておくこと。</p> <p>また、それを明晰な文章で表現できる力を身につけること。</p> <p>課題は必ず提出すること。</p>				
テスト					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イギリス産業革命	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。	
		2週	ナショナリズムとその時代	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。	
		3週	イタリアとドイツの統一	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。	
		4週	列強のアジア進出とアヘン戦争	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。	
		5週	幕藩体制の構造	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。	
		6週	江戸幕府の対外政策	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。	
		7週	幕末の動乱と明治維新	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。	
		8週	日清戦争	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。	

2ndQ	9週	情報リテラシー指導	ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。
	10週	日露戦争と辛亥革命	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。
	11週	第一次世界大戦とヴェルサイユ条約	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。
	12週	世界恐慌とファシズムの台頭	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。
	13週	第二次世界大戦	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。
	14週	東西冷戦構造	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的および歴史的観点から理解できる。
	15週	戦後日本と主権者の在り方	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。
	16週	前期復習	複雑な事象の本質を整理し、構造化し、結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に表現できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	3	
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	4	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	4	前7
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	4	
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	3	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	3	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	3	
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	4	前15
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	3	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	3	
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	4	前15
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	4	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3		
			相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3		
			集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3		
			目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3		
			ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	4	前14	
			ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。	4		

			<p>現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。</p> <p>現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。</p> <p>事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。</p> <p>複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開できる。</p>	3		
				3		
				4		
				4		前9
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	4		
			集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	4		
			日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	4		
			ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	4		
			学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	4		
			市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	4		
			チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3		
			組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3		
			先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	3		
			目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	3		
			法令を理解し遵守する。基本的な人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	4		
			法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	4		
			未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会的な在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	3		
			技術の発展と持続的社会的な在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることができる。	3		
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3		
			公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3		
			クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しなければならないことを理解する。	3		
			クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しデザインすることができる。	3		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	10	10	100
基礎的能力	40	0	0	0	5	0	45
専門的能力	30	0	0	0	0	5	35
分野横断的能力	10	0	0	0	5	5	20